

琵琶作り70年の

勝田盛市翁受勲

89翁へ勲七等を

薩摩琵琶の本場鹿耳島で、薩摩琵琶製作に献身すること七十余年今年八十九歳の勝田盛市翁が、去る四月二十九日の春の叙勲に際し勲七等青色桐葉章を授章されたとは目出度い。

薩摩琵琶同好会の会員も我がこととの如く慶び、愛好者も同慶されたという。同好会顧問久木田稔翁は本社へ次の祝詞を寄せられた。

▲勝田盛市翁の受勲を祝う歌

◎琵琶作り七十余年をつらぬきて 牙え音主は卒寿かさねつ。

◎見出されて晴れの受勲の君のみか、薩摩琵琶界の榮譽ならずや。

◎華寿皇親しく祝辞賜りて 君がいさおし今ぞ輝く。

浜松の琵琶大会

吟詠、剣詩舞 琵琶入り六月に

旧冬逝去された静岡市の琵琶道の名人山本鶴声先生門下の浜松市在住の小野鶴彦師は、会名鶴絃会として市立公民館大ホールを会場に浜松市の教育委員会、文化連盟、

新聞社の後援を得て六月二十八日

第十三回琵琶演奏吟詠剣詩舞琵琶舞大会を公民館にて催された。同会場は千数百名収容の客席で、主催小野師が使用するのには初めて。上演種目は琵琶、詩吟、剣詩舞、舞を鶴絃会員で、挨拶ありて小野会主、来賓格の名古屋の志水旭城、阿部秋子、静岡の岡尾鶴城、京都の平井春嶺の各大家の順力奏あり、最後小野師出演で好評盛況裡に終わった。(通信)

一水会横浜支部 錦心流琵琶大会 錦心流一水会横浜支部では、温厚な人格名手采崎純水支部長の采配で、初夏演奏大会企画であったが六月二十七日午前十時より午後四時四十分迄市立福祉センターホームで開催を決定した。出演者は主催側采崎支部長始め会員と来賓一水会本部長中谷義水師以下佐藤、山田、平野、青木の演奏諸氏と吟詠家三氏である。支部会員は

出雲佐陀神能と 石見の神楽公演

四月国立劇場で

出雲大社の在る出雲国には神代の昔から神能とか神楽がありて神の御気心を慰められたと伝う。その代表的なものに佐陀神能、石見神楽がありて四月二十四、五の二日間東京の国立劇場小劇場で公演され、珍らしい初公開で人気を呼び盛会であった。

北海道琵琶情報

札幌二反田通信

社長様にはいつもお元気でご活躍の段お喜び申し上げます。私は先年来病のため入院したり通院したりで御無沙汰して申訳ありません。この度第二回目の支部長に選ばれましたので、こうじつとして居られたいと立ち上つても見ましたが未だに体の自由がきかず閉口して居ります。

非売品

編集発行者 鈴木誉士

東京都練馬区豊玉北五ノ一

電話(九九一)〇三六三番

芸の友社

昭和五十六年八月一日発行



琵琶特集 八月号

八月一日三越劇場で催す

筑前琵琶 紅会の演奏大会

正午開演、二十余曲を上演 名流協賛 共出演三十余人



(押田旭翁師)

東京の筑前琵琶界の名花女流七人が相寄り先覚の名人押田旭翁女師を主任として結成された「紅会」は、創立以来茲に二十一年。近年は日本橋の三越本店の劇場を常席に毎年開催してファンの人气的となり斯界の名物と謳われてい

その主任と讃えられる押田女史は、去る四月の春の叙勲に、木杯三ッ組合付を受章し榮譽を荷つて名人の妙技に一段の花を飾つたが、今年度の紅会演奏大会は前報

の通り八月一日正午開演、日本橋の三越劇場で催される。出演者は押田師を筆頭に小笠原、原島、原田仲川の結成当時の会員と若宮、宮武、三上、石井、藤内の精鋭女流会員等他数名の新人、協賛の他演出演大家に木原綾子、友吉鶴心、遠藤鶴東、杉山旗水諸氏で、延べ人員四十余人、上演曲十九。吟三題に舞踊二つであり、序と終の合奏は同会独自の合奏大舞台で飾ると。司会者は例の如くNHKの名アナウンサー鈴木健二氏で名調子發揮される。番組と出演者次の通り。

- 石垣若枝 ▲祝賀の詞 大野藤子
- ▲千鳥 — 坂本松良 ▲扇の的 — 深谷穂葉、絃都錦穂 ▲大楠公 — 石井旭良 ▲衣川 — 藤内旭須美 ▲伽羅の兜 — 三上旭風 ▲曲垣平九郎 — 木原綾子 ▲二〇三高地 — 若宮旭登 ▲名将加藤清正 — 小笠原旭星、絃押田旭翁 ▲浜松城 — 宮武旭豊 ▲大物の浦 — 仲川旭朋、絃押田旭翁 ▲御挨拶 ▲吟詠舞。人面桃花 — 吟石井旭良 絃押田旭翁、藤内旭須美、三上旭風 ▲舞踊。月見草 — 三上旭風、藤内旭須美、絃押田旭翁、石井旭良 ▲西郷隆盛 — 友吉鶴心 ▲若き致盛 — 原島旭粧 ▲龜山上皇 — 遠藤鶴東 ▲細川ガラシャ夫人 — 押田旭翁 ▲物語琵琶。宮本武蔵 — 杉山旗水 ▲綱錘 — 原島旭粧、原田旭柳、仲川旭朋、絃三上旭風、石井旭良、藤内旭須美、小絃押田旭翁。以上

暑中御伺

芸の友社

鈴木誉士

東京都練馬区豊玉北五ノ一 電話(三〇四)〇三六三番

舞見御中

鶴田錦史 東京都港区麻布狸穴四五 (狸穴マンション四〇三号) 電話(三〇五)八二〇六番

大和流琵琶吟宗家

山崎光掾 大阪府高槻市宮田町一ノ六ノ五 電話(三六)三一五九番

筑前琵琶橘会宗範

山崎旭萃

笹川鎮江 (旭風) 東京都文京区千石二丁目三ノ一三 電話(三〇四)〇七三二番

電話(三〇四)〇七三二番

琵琶塗り 三宅鶴山

922 石川県山中町上原口甲95 -01 電話 07617 (8) 2239番

薩摩琵琶 専門製作

附属品一式

各定価1,500円 送料200円

石田琵琶店

創業明治十一年 東京都港区虎ノ門三ノ八ノ四 電話(三〇四)六五四八番 (地下鉄虎ノ門バス停南口二丁目)

舞見御中

筑前琵琶日本旭会

範司 押田旭窈

〒160 東京都新宿区三栄町一六
電話〇三〇四四九一・〇六五四二番

日本旭会総師範

河野旭保

〒802 北九州市小倉北区馬借一ノ一四ノ五
電話〇九三(五)八三四〇番

日本旭会総師範

柴田旭堂
上原まり (旭 艶)

〒651 神戸市中央区上筒井通五ノ四ノ二
電話〇天(五)一一六一番

筑前琵琶福岡旭会

会長 中村旭園

〒810 福岡市中央区今川二ノ七ノ六二
電話〇空(〇)〇一七・〇七〇二七八番

榊本旭風

〒537 大阪市東成区神路町三ノ八ノ六
電話〇六〇(一)三二九一・四番

高千穂旭楓

〒544 大阪市生野区小路二ノ二六ノ五
電話〇六〇(四)〇三二五番

筑前琵琶日本旭会

旭山会 会長 木庭旭山

〒557 大阪市西成区千本北一ノ三ノ三
電話〇六〇(七)九二二二番

横浜旭会 会長

大師範 小原旭成

〒241 横浜市旭区本宿町一〇六
電話〇四五(一)八九三番

横浜旭会幹事長

板倉旭富

〒231 横浜市中区本牧大里町一一四
電話〇五(〇)〇四七二・〇四七五番

琵琶吟 赤心流

家元 赤心流鶴翁

〒420 静岡市西草深町二ノ二〇
電話〇五三(五)一四七一番

舞見御中

筑前琵琶

日本橘会

家元 橘 旭宗

事務局
〒152 東京都目黒区目黒一ノ三ノ三二
電話〇三〇三三三二〇三番
〒444 岡崎市城北町一七ノ一
電話〇五五(二)四四五七番

筑前琵琶橘会

大坪旭邦

ロスマンゼルス
電話(三三)四六四五番

錦心流琵琶三浦蓮水後援会

会長 加藤弥三三二

事務所
〒662 西宮市松原町九ノ八
電話西宮(26)三三二二番

蓮水会 会長 三浦蓮水

〒662 西宮市羽衣町七ノ二九
電話宅元(33)五八八七番
会 員 一 同

詩吟朗詠錦城流

宗家 山元錦城

〒166 東京都杉並区成田西一ノ六ノ三
電話〇三(315)六二二二番

筑前琵琶橘会大師範
詩吟朗詠錦城流宗範

夏秋旭芳
夏秋錦穂

〒857 佐世保市谷郷町四ノ一
電話〇五(23)一一三四番

筑前琵琶嶺派

嶺 旭蝶

〒810 福岡市中央区春吉一ノ八ノ二
電話〇五二(一)〇三二〇番

青山旭子

筑前琵琶

東京橘会

事務局
〒166 東京都杉並区成田西一ノ六ノ三
電話〇三(315)六二二二番

筑前琵琶橘会師範

久保旭栄

〒885 都城市鷹尾三ノ三八ノ一二

錦心流琵琶輝流
輝水会本部

会主 輝 錦凌

〒113 東京都文京区本郷五丁目二ノ三
電話〇三(一)七五七四番
外 会 員 一 同

舞見御中

吟詩
吟舞
空城流宗家

村上空城

〒010 秋田市金照寺山公園七ツ森
空城流吟詩吟舞会館
電話(〇八)(32)九〇二四・七七一

錦心流琵琶一水会本部

中谷襄水

本部 171 東京都豊島区南池袋三ノ一五ノ一一
〒内田ビル2F 電話(三)(〇〇)一九九二番
自宅 232 横浜市南区井土ヶ谷中町六二
〒電話(〇四)六七七七番

吟詠菊水流宗家

菅根悠光

吟舞菊水流宗家

永田咏滉

〒125 東京都葛飾区青戸六ノ三七ノ二
電話(〇三)三〇七五番

筑前琵琶橋会

堀田旭甲

天風甲心流吟道甲心会本部
444 岡崎市城北町一七ノ一
電話(〇五)(21)四四五七番

筑前琵琶橋会

角田旭岑

152 東京都目黒区目黒本町一ノ二六ノ三
電話(〇三)(72)二二三三四番

琵琶講談・詩吟物語

大野皎月

618 京都府乙訓郡大山崎町高橋三ノ六
電話(〇七五)一〇六七番

四絃琵琶齋曲会

望月啞江

272 市川市東菅野四ノ八ノ二一
電話(〇三)(38)(三六七)(39)一六九六

筑前琵琶日本橋会
中部橋会 会長

西村旭一声

485 小牧市北外山字竹林四二九六ノ四
電話(〇五)(73)九六四五番

錦琵琶

木原綾子

274 船橋市高根台四ノ一五ノ四
電話(〇四)(66)七九四〇番
新宿区大久保三ノ一四ノ三
電話(〇三)(28)七七六四番

都派琵琶秋の公演(十月九日)

都錦穂

113 東京都文京区根津二ノ一五ノ二
電話(〇三)五七〇八番

錦心流琵琶名古屋秋声会

阿部秋子

454 名古屋市中区中島新町中川住宅
五ノ四 電話(〇五)三〇二八四番

巨匠中谷襄水師 創作発表会聴く

現代錦心流琵琶の第一人者で、一水会本部会長の地位に在り、斯界の名人と讃えられる中谷襄水師は、他に譲らぬ忠女荒井姿水女史が昨秋十月に日本琵琶楽協会主催の琵琶コンクールに出場して優勝し、文部大臣賞を受賞されたのを喜び、これを記念し激励の意味を含めて、予てより研究中の琵琶に依り創作中の舞踊と劇を発表して同好ファンに批判を乞うべく六月一日午後五時開演、国立劇場演芸場にて発表会を催された。

気節は新緑芽える初夏の候なのに今年も天候異常か雨混りの雪が北海道の一部と山形県に降ったと前日のテレビ報道であり寒気肌を刺すのに驚く。然し当日は曇天ながら雨も降らずヤレヤレの天気で来場者の出足も早く四時頃よりファン若者の姿が見え始め、開演定時夕五時には入場定員数三百余名の半分を埋める好調の人氣振りを示す。会主中谷師の希望はこの催しは若い者に観て頂き「琵琶を理解し興味を持って貰うこと」にあると云われる。

開演は予定通り五時開幕、錦心流一水会横浜支部会員高橋、甲田

采野、吉浜を右に、絃中谷(中)「本能寺」の曲合奏であった。序曲からの関係が少し低調であった。次は吟詠「事に感ず」吟者斎藤祥風、伴奏琴近藤、尺八福岡の三氏出場であり呼吸も合って感動的であった。三番目は一水会本部会員六氏が左右に三人宛分れ、歌二人絃一人(中)で組み、右には石井、松本、渡辺三氏。左は田中、杉本、河合で掛合「河中島」の曲で奮闘されたが幹部級の演技としては練習不足かと感じられ、撥音も一致せぬのが残念であった。

▲四番目は琵琶舞踊「吉野山懐古」で琵琶中谷襄水、舞踊藤上南山(菊水流宗家)、田中恵三氏出場、屏風一双背景で舞ったが無難と申上げて置く。次は荒井姿水女史の琵琶「戦艦大和」で舞台中央に只一人の晴れ姿。堂々たる演技で情緒豊かな節廻しの巧みさ、特に撥さばきの鮮かさと牙音に深感した。撥捌きの巧技は父襄水師を凌ぐのではないかと察した。次は会主中谷師の「石童丸」上演である。この曲は錦心流琵琶代表的の名曲で流祖錦心師が名を売ったのは此の曲である。今日中谷師が此の曲で名人芸の實録を示すのも因縁か。哀愁一際迫る裡に涙あ

り涙を誘う悲情よく流石に合点させられた▲創作琵琶舞踊「静」琵琶荒井姿水、立方真屋順子(藤間翠受)の緋の長袴姿の静で舞ったが、芸名高い真屋さんとしては演技牙えず失望した。あとの挨拶の場での言葉で「ぶっつけ本番で舞った」と自白したが知名人としては不心得者と申し叱って置かない。

御挨拶は先づ会主中谷師が主催者として本会催しの趣旨を述べ御礼を告げ、樹木希林、荒井姿水の二息女も登壇し感想を述べ。続いて琵琶楽協会副会長金田一春彦、テイチク役員菅野、俳優高津住男、真屋順子の諸氏が順次登壇して祝辞と所感を述べられた。▲最後は琵琶劇「耳なし芳一」で、耳なし芳一役の俳優以下劇団の俳優等十余名出演で悲壮の舞台立廻りを演ずるのであるが、中途退場したので失礼す。(管主)

日本琵琶楽協会主催の恒例名流琵琶演奏会が六月十四日東京茅場町の東京証券会館ホールで催された。三年前より脳血栓症に罹り半身不自由で単独歩行不能の私は、久し振りに千葉夫妻に附添われて

琵琶名流会を聴く

降雨の中を車で会場へ向った。会場受付で協会員友吉、片平兩人と会い、楽屋で名古屋より来演の土井女史と応援の前田旭城師と半年ぶりで逢った。前田師は名古屋琵琶の名物男で快活な人情家である。朝八時に出発し上京したとかでお話はずきぬ。控室で遠藤理事長や出演者数氏とも挨拶した。会場前のロビーで多くの知人と逢って雑談中に演奏が開始された。名古屋から初出演の土井旭浄さんの(小栗栖)から聴く。相当の年月習練された方らしく弾手は巧みで、歌節も順調で早出しには惜しい人だが、声調にクセがあるのが瑕でこのクセを直せば先づ名手だ

▲水藤松子(頼朝の娘)は初めて聞く珍らしい曲だ。若い方だから無理もないが大声で怒鳴るだけが歌ではない。節調を大切にとの心懸けを▲藤波松華(湖底の月)この曲も初めて聞く。場馴れした演奏ぶりファンへの感じは好い▲須田誠舟(彰義隊)実に堂々たる大妙技で寸隙を見せぬ力量は名人芸の實録、さすがに天才と合点す▲田中光水(竜の口)錦心流若手の大物として確かに愛好者を惹きつける力は立派だ。故父晃水師も地下で満足されて居よう▲仲川秀邦師(城山)東京斯界の名物女性で長老組の大家、薩摩、筑前錦と三流を弾く器用名手と言うだけありその力量は想像されよう▲吉川英史会長の御挨拶あつて第一部へ。若林旭洋(衣川)、故田中旭嶺女師に師事された時代と替り上達し落着いた態度で無難▲木原綾子(盛綱先陣)、独自の奏法で自在な妙技を發揮されファンを惹きつけた魅力は素晴らしい名人芸と言えよう▲山下晴楓(天目山)故浅野晴風十八番物の得意曲であったが現時でこの曲を斯くまで寸隙なく演奏し得る人は他に居るまい。実に整った巧演で当日の秀技か▲原島旭粧(北の庄)旭会系女流屈指の大家で全国的な芸人。当日の演奏も申し分ない巧みで流石に堂々たるもので感動した▲久留米より来演の島津天嶺(細川ガラシャ夫人)近年珍らしい上演曲であるが他に要談ありて失礼した▲高田栄水(接待)、気品高い優雅な妙技はこの人の性格が修養か、何れにしても好感の持てる美事な演技で始終一貫されたのは立派である▲彦根より来演の林田旭城(関ヶ原、当代橋会中堅師)の巧者で、大師範の地位にあり声量豊富の上に撥さばき鮮か堂々たる舞台態度で申分ない名人芸。当日の庄巻は正にこの女師であろう。当日このあとに石坂鶴朋、遠藤鶴東両大家の出演が予定されてあるが午前中からの入場なので九十老人には疲れを覚え失礼退場す。

舞見御中

日本琵琶楽協会副会長
薩摩琵琶正統会運営委員長
薩摩琵琶古曲研究会々々長

辻 靖剛
185 東京都分寺市東元町三ノ三四
電話(03)三三三(21)三三三五番

日本琵琶楽協会々々員
薩摩琵琶正統会々々員

東主 **柏木篁道**
125 東京都葛飾区鎌倉ノ元ノ四
電話(03)六六一九四七番

薩摩琵琶四明会会長
京都琵琶協会の会長
日本琵琶協会の理事
日本琵琶楽協会関西支部副支部長

平井春嶺
603 京都市北区平野宮西町六四
電話(075)五二二(一四)三三番

薩摩琵琶同好会
会長 **田上精市**
892 鹿嶋市平之町二ノ一九
電話(056)二二(22)一八七三番

薩摩琵琶雲雀会

遠藤鶴東
260 千葉市登戸四ノ九ノ二
電話(043)三(41)一九〇二番

仲川秀邦
164 東京都中野区本町三ノ二
電話(03)新都ハイム(2)〇五
(375)一八四七番

錦琵琶

村木桜柳
190 立川市高松町二ノ二
電話(042)五(27)三五四一三番

国風流詩吟部
輝水会北米支部
支部長 **福手錦稜**
外会 員 一同
羅府サマーセツト通三八〇七

錦心流琵琶

秋山溪水
153 東京都目黒区上目黒三ノ二
電話(03)四〇六〇六番

高田栄水
176 東京都練馬区豊玉北四ノ二
電話(03)四七二〇八番

加藤錦陽
181 三鷹市井の頭三ノ一九ノ六
電話(03)三(43)七九六五番

錦心流琵琶
一水会本部
171 東京都豊島区南池袋三ノ五ノ二
内田ビル(内電)〇(88)一九九二番

奥田医院
奥田興
113 東京都文京区湯島三ノ八ノ二
電話(03)八三七一〇番

横須賀琵琶連盟
会長 **山田幻水**
237 横須賀市船越町一ノ五〇
電話(046)六(61)三六七六番

日本錦古流藤城会々々長
全国朝吟文化協会常任理事
テイチクレノード専属

会長 **四方田錦隆**
375 群馬県藤岡市古松町乙二四六
電話(027)五(22)〇三三七番

錦心流琵琶一水会
中村春水
226 横浜市緑区大鶴町三四ノ五
電話(045)五(47)六七七八番

錦心流
もの話 琵琶・詩吟 教室
錦心流琵琶一水会藤沢支部顧問

錦賜会 秋山錦賜
251 藤沢市鶴沼桜が岡二ノ一ノ三
電話(046)六(23)七八七六番

日本祥風流詩吟会本部
宗家 斎藤祥風
247 鎌倉市大船一ノ二四ノ一四
電話(046)七(46)二六六〇番

吟詠教授
晴声吟詠会
会長 **中村晴声**
432 浜松市鹿谷町三三ノ一〇
電話(053)五(71)七六六〇番

石田琵琶店
四世 **石田不識**
105 東京都港区虎の門三ノ八ノ四
電話(03)三三六五四八番

琵琶巨匠伝

(7)

東京 永田咏混師

世界的美嶺富士山を眺める静岡県の山紫水明の地から飄然復雅な首都東京に移住し、芸術で渡世を志した永田咏混女史には自芸に對し深い信念と確固たる決心があったと察しられる。女師の研技吟舞は戦後の我が国民が要望して居る吟詠に添う美技で、伝説国民



(永田咏混師)

精神を鼓舞する妙技と言え。師は吟詠家菅根悠光師と共に萬籟区に菊水流本部を設けて二十余年。鋭意研修と努力は実を結んで幾百千の会員を養成して此の道の權威となり名人と称えられ、明快活の両宗家の気風と練磨の神技は人気王となり徳望を慕われる。

東京 望月啞江師

東京には筑前薩摩各流派の宗家とか家元を名乗る斯界の權威とか芸豪とか、大家とか呼ばれる弾奏



(望月啞江師)

家名手が現役のみでも千数百人は居るのである。大正や昭和初期時代と異り教師資格者も専門では生活難の時代で、献身的な琵琶研究者は稀少で奥技を極めた特志家は見当らぬ。唯一人撥を持つてば音當代一と言ふ名人望月啞江師が居られる。薩摩琵琶の名人東条師に就て研習された故、浅野、故錦嶺と共に三羽鶴と呼ばれた芸豪で、研えた音律は無比の名人である。剛快直情の性格者で書道の大家であり作詩もされる。菊水流顧問格の芸通人である。

横浜 小原旭成師

全国一を誇る琵琶団体の筑前琵琶日本旭会には、会員資格制度があり最位範司、総師範、大師範、師範、準師範、大教司、教司、教



(小原旭成師)

京都 平井春嶺師

千年の古都を誇る京都は、日本人の心の故里であり名所古蹟の多い山紫水明の景勝地として名高い。史蹟の都だけに総ゆる芸事



(平井春嶺師)

家元も住まれ繁栄したので其の事績が今に伝えられ人気を呼んでいる。その最たるものが舞踊で、都おどりが有名である。四絃も大正時代は流行を極め幾多の名手

福岡 中村旭園師

筑前琵琶は筑前国博多の郷土芸術である。初代橋旭翁師が此の博多より出て東京へ移住し、金子、頭山両偉人(郷土出身)の支援を



(中村旭園師)

得て筑前琵琶家を宣言し、国民伝統精神音楽として普及に活躍し、愛好会員十数万を算する流行ぶりで成功した。日本旭会は茲で発会し七十年の歴史を有す。昨秋旭会全国大会もこの地で開かれ、中村旭園女史司会で巧みな社交術で人気を得て成果を挙げ、大宰府天満宮へ全国代表と共に参拝された。中村女史の敬神崇仏は有名だ。

名古屋 前田旭城師

金の鯨銭で高名な名古屋城の旧徳川三名家六十余万石の城下町は有名な芸能人の開所で、東西の京へ往復する芸人は此処の舞台で技



(前田旭城師)

量を試験されたと言ふ。琵琶人も例外ではなくて初代橋旭翁、永田錦心、安部旭洲、橋旭宗の諸名人が登場して深縁を造って遺蹟を残している。特に橋旭宗師は斯界の新鋭活動者前田旭城氏へ名誉師範の称号まで贈って激励し感謝されたと言ふ。前田師の誉れだ。

内山鶴崇師入院

北海道へ吟道を開拓された斯界の強豪で、琵琶推進の名人である札幌市の内山鶴崇師は、五月初旬頃旅行先で健康を害し急に帰札して厚生年金病院に入院されし由なるも詳細不明であるが茲に入院のみを報ず。一日も早く全快を祈る。

藤巻旭鴻師退院
 去る四月下旬以来国税局診療所へ入院治療中であつた筑前琵琶会の大黒柱東京の藤巻旭鴻師範



(藤巻旭鴻師)

は手術後の経過良好で元氣も回復し六月二十六日退院されたとは真に目出度い。師は東都旭会長として今年度の旭会全国大会の重大な責任者であるだけに自重肝要だ。

十月広島で

橋会全国大会

四日新聞講堂

筑前琵琶日本橋会主催の昭和五十六年度全国大会大演奏会は、十月四日広島市の中国新聞社講堂で広島橋会長板谷旭女史司会を開く事が確定された。

協会の定例研究会

日本琵琶楽協会の定例研究会は七月十二日午後一時より新宿区新

宿の洲鳳会館で催し、錦心の末吉希水、筑前派の伴旭友、薩摩派の本橋油舟、筑前派の山下旭瑞、錦心派の田中光水各氏が出演した。

旭会全国大会

10月24、25両日
 東京農協ホール

筑前琵琶日本旭会の第五十一回全国大会大公演は、十月二十四、五の両日東都旭会藤巻旭鴻師司会となり大手町の農協ホールで催される由で準備中である。

名古屋秋声会

ゆかた会催す

名古屋錦心流琵琶の明星で、秀技と礼節の女流大家と定評ある阿部秋子女史は、恒例のゆかた会を六月十四日大須の中小企業福祉会館五階和室で開き、二十余名出演して賑やかに楽しんだ。

山崎、柴田両名人

上京して祝賀会へ

大阪の山崎旭孝師と神戸の柴田旭堂師は、六月二十日上京して二

十一日午後プリンスホテルで開かれた田辺尚雄先生の白寿祝賀会へ出席して先生の長寿を祝つた。

備後旭会々々長

筑前琵琶日本旭会理事

師範 川崎旭瀨

729-01 福山市松永町二八八ノ三
 電話(六六)五二四二番

暑中御見舞

薩摩琵琶

晴風会

164 東京都中野区中野三ノ三ノ六
 電話(三三)二三四九番

薩摩琵琶晴風会

山下晴楓

165 東京都中野区大和町一ノ一
 ノ二〇電話(三三)〇八五五番

筑前琵琶橋会
 名誉師範代

前田旭城

496 愛知県海部郡佐織町持中佐渡
 電話(五七)〇三八八番

筑前琵琶橋会
 大和流琵琶吟楽

師範 田子旭園

683 鳥取県米子市岩倉町六〇
 電話(九九)九〇五七番

筑前琵琶橋会師範
 旭芳会

山田旭芳

153 東京都目黒区下目黒三ノ一
 電話(三三)四一九六番

栃木県吟詩舞道連盟顧問
 橋流筑前琵琶吟楽

平田旭峰

321 宇都宮市峰町九〇
 電話(二六)四五六二番

東城流 詩吟教授
 琵琶 晴舟

緒方晴舟

192-02 多摩市桜ヶ丘二ノ三ノ二
 電話(三三)一〇九八番

静岡 水門門下

神戸栄次郎

250 小田原市南町二ノ一ノ二
 電話(四五)二三三三番

筑前琵琶日本橋会
 師範 友田旭泉

804 北九州市戸畑区天神二ノ九ノ八
 電話(三三)〇四三三番

筑前琵琶日本橋会

師範 伊佐地旭勢

465 名古屋市千種区松竹町一ノ
 七電話(三三)四九八八番

筑前琵琶日本橋会

法世院 土井旭浄

451 名古屋市西区那古野二ノ一
 ノ七電話(三三)四七三二番

筑前琵琶吟
 旭邑蓮吟

旭邑斎藤 雪子

237 横須賀市追浜東町一ノ六ノ七
 電話(二六)三九八七番

筑前琵琶鹿兒島旭会

大師範 柿木旭利

892 鹿兒島市新町四ノ二
 電話(九九)一七一七番

京 植村真水

565 大阪府吹田市山田東一丁目
 千里台スカイハイビルB棟二
 電話(九九)〇三二六番

**田辺尚雄先生の
 白寿祝賀会盛典**

二百数十名出席

日本音楽学界前会長田辺尚雄先生は、邦楽育ての親と尊敬されて各種音楽に愛情を持つ一般愛好者にも先生の名を知らぬ者はないと言ふ程有名である。その田辺先生は今年白寿(九十九)の高齢に達し、元氣で自叙伝草稿に精勵されて居られる由で、今回先生の白寿を祝う会を催すべく吉川英史、金田一春彦、岸辺成雄、矢部洋文、諸氏と田辺先生と特親の六名士が実行委員となり、邦楽各派の巨頭芸家三十名を世話人に依頼して各関係筋や芸能人に呼びかけ六月二十一日午後一時より芝公園プリンスホテルで挙行された。

会場内には田辺先生永年に亘る著書や揮毫品多数が陳列されて参観に供し、祝賀宴は二時より宴会場で聞き各実行委員の挨拶や、車椅子で臨席された田辺先生の力強い謝辞ありて参列者感激させられた。参加出席者は実に二百数十名で近年稀な盛儀であつた。当日琵琶関係の出席大家は、吉川、金田一、辻、矢部の協会首脳を始め押田、鶴田、遠藤、原島、仲川、原

田、大阪の山崎、神戸の柴田、箱根の押川の諸氏と他数名であつた。

**筑前琵琶旭会系
 関西連合会創立**

築前琵琶は、福岡県博多出身の初代橋旭翁師が東京に移住され、同郷出身の政界の偉人頭山満、金子堅太郎氏等大物有志の支援に依り国民精神高揚家庭音楽として普及発展され、明治、大正、昭和初期の十年頃までに同好会員約二十数万を算する勢力で邦楽界を風靡した。その後世界戦争に依り変遷して衰退したが再興して現在の隆盛を見るに到る。この間筑前琵琶の発祥地の本場博多には保存会が創立されて琵琶振興に協力支援され、全九州地区旭会系有志相謀りて九州連合会を組織して毎年盛大に演奏大会を開催し続けている。今回関西にも連合会を創立して



(田中旭昇師)

斯道の振興を図り普及向上に拍車

**創立記念大演奏
 会は満員の盛況**

築前琵琶関西連合会創立記念演奏大会は、六月十四日午前十時半開演、神戸市長田区大塚町の上田観正会能楽堂にて催し、十九曲上演して協会会員名流二十数名出演しての妙技披露と東大阪旭会長榊本旭風会長のご挨拶もあり、当日折悪しく雨天であつたが満員の大人氣で拍手の声援盛んで成功した。

出演者の氏名次の通り。番組順 備後近藤旭水、岡山谷口旭孝、桜井竹本旭将、姫路宮口旭陽生、岡山三宅旭栄、植村旭照、姫路山田旭晃、神戸富樫旭桂、大阪木庭旭山、東大阪高千穂旭楓、大阪中央塩谷旭洲、東大阪原原旭瀧、浪速天津旭千代、大阪尾山旭瑞常、(御挨拶) 東大阪榊本旭風、大阪野坂旭樹、神戸能勢旭陽、大阪中央中島旭穂、大阪松尾旭紅、横野旭風、大阪笠旭洋、姫路西川旭操、神戸田中旭昇、相生浜本旭好、岐

筑前琵琶橋会
 名誉師範代

前田旭城

496 愛知県海部郡佐織町持中佐渡
 電話(五七)〇三八八番

筑前琵琶橋会
 大和流琵琶吟楽

師範 田子旭園

683 鳥取県米子市岩倉町六〇
 電話(九九)九〇五七番

筑前琵琶橋会師範
 旭芳会

山田旭芳

153 東京都目黒区下目黒三ノ一
 電話(三三)四一九六番

栃木県吟詩舞道連盟顧問
 橋流筑前琵琶吟楽

平田旭峰

321 宇都宮市峰町九〇
 電話(二六)四五六二番

東城流 詩吟教授
 琵琶 晴舟

緒方晴舟

192-02 多摩市桜ヶ丘二ノ三ノ二
 電話(三三)一〇九八番

静岡 水門門下

神戸栄次郎

250 小田原市南町二ノ一ノ二
 電話(四五)二三三三番

御礼御挨拶

冠省、この度筑前琵琶関西連合会創立記念演奏大会に際しましては格別の御厚情を賜り、お蔭をもつて生憎の雨天にも拘らず盛會裡に終了致しました事は御同好各位のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

先は略儀ながら紙上をもつて謹んで御礼申し上げます。
 昭和五十六年六月

筑前 関西連合会

会長 田中旭昇
 会員一同

前田旭城師来訪

名古屋琵琶界の名士前田旭城師は六月二十二日所用ありて上京、午後二時芸の友鈴木邸を訪問され、斯界の情報や懐旧談に花を咲かせ三時間余会談して夕五時頃辭去し帰名された。

田中歴水師逝去

富山市の名望家で田中金庫会社社長で商工会議所議員を始め多くの名譽職を荷う有力者田中重次氏は、敬神崇祖の信仰者でも知られ、趣味で愛好の琵琶音楽では錦心流一水会富山支部長で歴水と芸名され北陸道の主要名士であつた。

師は昭和五十一年一月発病、前立腺癌と診断されて入院、以来ガンを手術一回、白内障の手術治療も受けたが回復せず衰弱漸り遂に去る五月二十三日午後十時五十分永眠されたとは真に惜しまれる。享年八十一歳。葬儀は同月二十五日仏式に依り行われ会葬者多く盛儀であつたと。法名「至徳院釈智清」。茲に謹んで敬申し御冥福を祈る。

**故水藤枝水師の
 七回忌法要行う**

東京錦心流琵琶の大家で、水藤錦藤名人育ての親であり、琵琶界のボスの存在で威力のあつた枝水こと水藤安平師が死去されてから早くも七年、七月十三日は祥月命日に当るので、てる子未亡人と遺子は、輝、都の両女史等と故師の墓前で回忌法要を行うた。